

第14回さいたま子ども短歌賞 応募要項

短歌を通して児童生徒の豊かな感受性と国語力をはぐくみ
伝統的な言語文化の継承を図るために
さいたま子ども短歌賞を実施し作品を募集します
短歌作品を応募票に記入してお送りください

★対象

全国の小・中学生

★応募期間

令和8年7月17日(金)から
令和8年9月3日(木)まで

★応募のきまり

- ・所定の応募票を使用してください。
※応募票のコピーや、市ホームページからダウンロードしたものの使用は可とします。
ただし、用紙サイズはA4とし、縮尺は変更しないでください。
- ・1人3首まで応募できますが、入賞は1人1首とします。
- ・応募作品は未発表の自作短歌に限ります。
ただし、学校の授業で制作した作品は可とします。
- ・他の短歌コンクールとの二重投稿や、既に発表されている短歌・歌詞等に著しく類似したものは、選考の対象になりません。
- ・応募のきまりに反する場合は、入賞を取り消すことがあります。

★選考委員

沖 ななも (歌人)
佐伯 裕子 (歌人)
外塚 喬 (歌人)

★賞

優秀賞 20首
賞状、図書カード (3,000円分)、
作品集を贈呈します。

入選 80首
賞状、作品集を贈呈します。

★発表

入賞者は、委員による選考後 11 月下旬頃に決定します。

入賞者本人へ学校を通じてお知らせするとともに、在籍校の学校長宛てに通知することで発表とします。

★表彰式

表彰式を次のとおり開催します。

期日 令和9年1月17日(日)

会場 さいたま市青少年宇宙科学館
青少年ホール

★作品集

入賞作品 100 首を掲載した作品集を作成します。

作品集には、作品とともに作者名、学校名、学年を掲載します。

★作品の取扱い

- ・応募作品の著作権は、さいたま市に帰属します。
- ・応募作品の原稿(応募票)は返却しません。
- ・入賞作品は、さいたま市ホームページ、本市刊行物等で作者名、学校名、学年と併せて掲載します。
- ・応募に際して取得した個人情報は、さいたま市教育委員会が実施する短歌に係る3つの事業以外の目的では利用しません。

※「夢と音楽をつむぐ短歌 未来へのかけはし事業
～Saitama "Tanka" Promotion Project(STPP)～」
さいたま子ども短歌賞、さいたま短歌フォーラム、現代短歌新人賞(詳細は市ホームページをご覧ください。)

※応募先・お問合せ先

さいたま市教育委員会事務局生涯学習振興課 電話 048-829-1705 FAX 048-829-1989
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4 E-mail shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp

さいたま市教育委員会事務局「自分発見!」チャレンジ up さいたま」スタンプ事業です。

第14回さいたま子ども短歌賞応募票

※三首まで応募できますが、入賞は一人一首です。

①

②

③

短歌の基本は「五七五七七」だけど、「字あまり」「字たらず」でも大丈夫！大きな字ではっきり書いてね！！

がっこうめい がくねん くみ
■ 学校名、学年、組

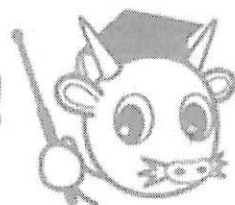
がっこうめい 学校名	しやつ 市立 ちやう 立	がくねん 学年	くみ 組
---------------	-----------------------	------------	---------

しめい
■ 氏名(ふりがな)

(ふりがな) 氏 名

※この応募票は A4 サイズのまま、拡大・縮小せずに提出してください。

3つのステップで短歌を詠んでみよう！



短歌ってどんなもの？

心を動かされる景色や出来事などを、五・七・五・七・七の三十一文字で言い表した詩です。

【例：声に出して読んでみよう】

「寒いね」と 話しかければ 「寒いね」と 答える人の いるあたたかさ (横 万智「サラダ記念日」より)

STEP1 テーマを決めよう

どんなことを短歌にしたいか考えてみよう。
自分の好きなことや、楽しかったこと、感動したことなど、自由に選んでみてね。

テーマの例

- | | | | |
|-----------|----------|----------|--------|
| ・学校でのできごと | ・家族、友達 | ・好きなスポーツ | ・動物、植物 |
| ・行ってみたい場所 | ・夏休みの思い出 | ・将来の夢 | ・景色、風景 |

STEP2 つながりのある言葉を書き出そう

決めたテーマから思いつく言葉を、たくさん書いてみよう。
このときは、文字の数は気にしないで、頭にうかんだ言葉をたくさん書こう。

STEP3 五・七・五・七・七のリズムにあわせよう

STEP2で集めた言葉を組み合わせて、「五・七・五・七・七」に当てはめてみよう。
でき上がったら、声に出して読んでみるといいよ。

※字余り(文字数が多いこと)・字足らず(文字数が少ないこと)でも大丈夫！
伝えたいことが表現できるように、いろいろな言葉を試してみよう。

上級者のおなたへ いろいろな表現のしかたにチャレンジしてみよう！

- ① 比喩(たとえる)
例：「雪」の比喩⇒「白い馬のような雪」
- ② 体言止め(最後が名詞で終わる)
例：「空が青い」の体言止め⇒「青い空」
- ③ 対句(同じ構成の語を並べる)
例：おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に
- ④ 擬音語・擬態語(音や様子を表す)
例：わくわく、どんより、ガタン、もりもり
- ⑤ 漢字とひらがなの使い分け(あえてひらがなを使うと、やわらかい印象になるよ)